

こころ はぐくもう

実践事例編Ⅱ



道徳教育は、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としています。これからの社会では、教育を通じて一人一人のウェルビーイングを向上させることが求められています。子どもたちの多様なウェルビーイングの実現に向け、「人生いかに生きるべきか」という生き方の問いを考える道徳科の学習を要とし、道徳教育の充実を図ることが、これまで以上に重要となっています。

本リーフレットは、特に児童生徒一人一人の「いじめを許さない心」を養う道徳教育の取組に資するため、道徳科の授業で活用できる教材及び指導例等と、「奈良の子どもの未来を拓く道徳教育推進事業」における道徳教育の取組を掲載しています。各学校における道徳科の授業や道徳教育の充実に向けて、本リーフレットを参考にいただき、児童生徒の心を育むことに役立てていただければ幸いです。

令和7年3月

奈良県道徳教育振興会議

奈良県教育委員会事務局義務教育課

いじめを許さない心を養う道徳科の指導例

主題名 自分の意思で（内容項目 小学校高学年 A 善悪の判断、自律、自由と責任）
教材名 フェイクニュース(奈良県教育委員会)
指導学年 小学校第6学年

教材について

社会において、利便性があると言われている生成AIは、様々な利活用が考えられる一方で、ハルシネーション(誤った出力)についても考える必要があります。

本教材では、災害等非常時においては、悪意のある情報の拡散だけでなく、「このことを早く知らせてあげよう」という善意から真実でない情報の拡散が発生してしまうことがある場面を取り上げています。不測の事態に対し、得た情報をもとに自己決定して、行動に生かすことや、情報を発信したり新たな価値を創造したりするなど、児童が自分の考えをもち、責任をもって情報端末やインターネット等を有効活用できるような資質・能力の育成に向けた教育活動を展開していくことが必要です。

本教材は、主人公の「モヤモヤする心」について考えることを通して、真実でない情報に騙されないようにすることだけではなく、自分も様々な情報を発信する立場であることを自覚させ、物事をよく考え、周りに流されず、自分の意思を強くもって行動することの大切さについて考えさせることをねらいとしています。

ねらい

自分と向き合い、根拠に基づいて自分がよいと思うことや正しいと判断することを、周囲に流されず、自信をもって行動することの大切さを自覚し、責任をもって自律的に判断する力を育てる。

| | 学習活動 | 主な発問(○、◎)と予想される児童の反応(・) | 指導上の留意点 |
|----|--------------------------|---|---|
| 導入 | 1. モヤモヤした経験を思い出す。 | ○ついつい周りの雰囲気流されてしまい、後で、モヤモヤしたことはありますか。 | ・自由に話し合わせ、自己の経験を振り返らせる。 |
| 展 | 2. 教材文「フェイクニュース」を読んで話合う。 | ○心の中がモヤッとしたヒロミは、どんなことを思っていたらう。 ・止めた方がいいかもしれない。 ・アキがしようとしていることは本当にいいのかな。 ・本当に大丈夫かな。人助けになるのかな。 | ・親友のアキに、はっきりと言えないヒロミの心情について考えることで、自分の意思を貫く難しさについて考えさせる。 |
| | | ○フェイクニュースを作った人や広めた人、買い占めた人やそれで困った人など、この大騒動に関わった人たちのことをみんなはどう思ったらう。 ・うそをついたことがそもそもダメだ。 ・本当か確かめないでいたことがよくなかったのではないか。 ・どの立場であっても考えなければいけない。 | ・フェイクニュースを作成した人や、それを広めていった人など様々な立場で情報に対する向き合い方について考えさせる。 |
| 開 | | ◎ヒロミの心の中で大きくなってきたモヤモヤとはどんな思いだったらう。 ・もっと自分で確かめていればよかった。 ・アキを止めなければ自分も嘘をついたことと同じだ。 ・もっとよく考えて行動していきたい。 ・友達に任せて、自分でどうするかを決めてはいなかった。 | ・先生の話聞いて、さらにモヤモヤするヒロミの心情を考えることで、情報との向き合い方や自分で考え、判断することのよさや大切さについて考えさせる。 |
| | 3. 主題について考える。 | ○フェイクニュースもあれば、フェイクではない正しい情報もある私たちはどんな考えをもっていることが大切なのだろう。 ・自分の行動に責任をもつ。 ・周りに流されないこと。 ・自分の考えに自信を持って判断すること。 | ・物事に対して自分の考えに自信をもち、周囲に流されず、自分の信念をもって行動することの大切さについて考えさせる。 |
| 終末 | 4. 学習を振り返る。 | ○今日の学習を通して、考えたことや思ったことを書きましょう。 | ・自分の意思をもつことの大切さについて振り返らせる。 |

奈良の子どもの未来を拓く道徳教育推進事業 ～ 研究指定校の取組 ～

道徳教育は、児童生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としており、児童生徒一人一人が将来に対する夢や希望、自らの人生や未来を拓いていく力を育む源となるものです。学校、家庭、地域が連携し、自他の生命を尊重し、たくましく生きる子どもを育てている県内の学校の取組について紹介します。

奈良市立登美ヶ丘小学校



学校教育目標「自ら学び、あたたかな心もち、
たくましく生きる子の育成」



田中 祐一郎 校長

本校では、令和5年度より「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した道徳教育～『考え、議論する道徳』を視点とした授業実践を通して～」と研究主題を設定し、相手を思いやり、互いに認め合う心を育むために、道徳科で取り上げる問題を自分事として捉え、よりよい生き方について考えを深めようとする子どもの育成を目指しています。令和6年度「奈良の子どもの未来を拓く道徳教育推進事業」の研究指定を受け、学校教育のすべての場面において、目標達成に向けた教育実践を積み重ねてまいりました。

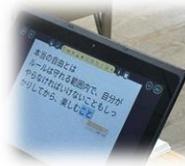
令和5年度は、学校として何を重点に置いて研究していくか、道徳科が目指すものの確認等、基礎的な研修から始め、研究討議のあり方や発問の作り方についても協議してまいりました。また、教職員、保護者、児童にアンケート調査を行い、道徳教育における課題を探り、本校としての重点項目も設定しました。

令和6年度は、近畿小学校道徳教育研究大会の会場校として本校で授業公開するというのも重なり、令和5年度の成果と課題の中から研究の重点を決め、さらに質の高い道徳科の授業を目指し研究を続けてきました。特に、「発問と問い返し」の重要性については、これまでの研究授業から学ぶところが大きかったため、職員間で盛んに意見を交流し合い、授業を創ってきました。

また、各学年どのようなことを「特別の教科道徳」で学んでいるのかを児童や保護者に学年だよりなどを通じて見える化を図り、家庭や地域の方に周知・共有してきました。

この研究指定を受け、教職員は、児童の変化について、「自分事として考え、他の人の意見を聞き、受け入れるという姿勢が育っている。」「友達の考えを知ることによって意欲的になり、互いの考えを認め合う意識が高まった。」と感じています。また、教職員自身も「子どものつぶやきや気づきを大切に、子どもの言葉から一緒に考えを深めていく。」「道徳の授業以外でも、子どもたちが主体的に学習できるような工夫を考えるようになった。」「正答は一つだけではなく、モヤモヤと考えることも価値であることを知った。」など教育活動に対する思いの変化を感じています。

引き続き学校教育全体を通じて道徳教育を推進し、自ら学び、あたたかな心もち、たくましく生きる本校の児童を育てていきたいと考えています。





★文部科学省 道徳教育アーカイブ

①<https://doutoku.mext.go.jp/>

★奈良県 道徳教育アーカイブ

②<https://www.pref.nara.jp/67965.htm>

★学習指導要領解説 特別の教科 道徳編

③(小学校)https://doutoku.mext.go.jp/pdf/elementary_school_02.pdf

④(中学校)https://doutoku.mext.go.jp/pdf/junior_high_school_02.pdf

①



②



③



④

